

佐賀市議会議員 自民さが たか ひろ

いなば 嵩広

ごあいさつ

今年は6月早々より真夏日を記録する日が多くあり、厳しい暑さに身体が順応せず、熱中症になることが心配されております。水分と十分な睡眠、そして適切な室温管理をしていただき、これから迎える本格的な猛暑のシーズンを乗り切っていただきたいと思っております。また、これからの時期は雨による浸水被害も心配されます。お堀の事前排水や田んぼダムによる流域治水が進んでおりますが、大量の雨を受け切れるかは未知数です。ポンプによる強制排水や河川改修などのハード整備が計画通り進捗しているか市議会としてしっかりと注視をしております。



佐賀市6月定例会のご報告

6月10日に開会し、7月2日に閉会しました6月定例会では約13億円の補正予算が編成されました。その多くは定期接種となるコロナウィルスワクチンの接種等に要する経費や、ハウス栽培で光や温度、施肥、二酸化炭素など高度に制御する先進的な農業に取り組む農家に対する補助経費となっております。その財源の多くは国や県の支出金によるもので、全会一致で可決をいたしました。その他、予算規模は大きくないものの注目の事業を右の欄にてご紹介いたします。

令和6年度6月定例会補正予算 主な事業

生活道路における速度抑制対策事業(建設部) 約600万円

生活道路における通過車両等の速度抑制のため、ハンプ(凸状の段差)やカラー舗装を施す横断歩道「スムーズ横断歩道」の整備を行うために要する経費です。今年度は附属小と龍谷学園周辺の生活道路に対策が行われます。(詳細は裏面をご参照ください)

温泉地誘客促進事業(経済部) 550万円

市内温泉地での日帰り入浴を対象としたデジタルクーポン配布に要する経費です。国スポ・全障スポで市内を訪れる方の市内周遊が期待されます。

高等学校生徒等通学費物価高騰対策経費(教育部) 189万円

路線バス通学定期券値上げに伴い、定期券購入費の一部を補助するために要する経費です。

一般質問 「家庭調査票のオンライン提出の実現を！」

毎年度当初、小中学生の児童生徒がいるご家庭において、学校から提出を依頼される家庭調査票。これは児童の生年月日や住所、保護者の氏名、連絡先、さらには手書きによる地図の記載など、共働きが多い現代の保護者の方にとっては負担となっております。北九州市では家庭調査票のオンライン提出を実現し、保護者の負担軽減を実現しました。

1 問 現在の調査票の取り扱いはどうなっているか？

答 毎年新たに提出をお願いする学校もあれば、以前提出をしていただいた調査票を返却し、修正箇所だけを記載してもらい再提出をお願いしている。

2 問 北九州市では調査票のDXに取り組み、オンライン提出を実現した。本市でも取り組んでみては？

答 オンライン提出については保護者の意見を聴きながら検討していく。

3 問 保護者の意見を聞くということであれば、オンライン提出のニーズ調査のため、アンケートを実施してみはどうか？

答 オンライン化による負担軽減をまずは見極める必要がある。今後、関係機関と相談し、その上でアンケートを実施するか検討していきたい。

今回の一般質問では取り組みへの検討をしていただく答弁までしか得ることができませんでした。しかしながら、今後も一つ一つ取り組みを重ね、少しでも市政を前進させるために努力してまいります。

その他の質問

地域新電力の検討進捗状況について・自衛隊駐屯地開設後の防衛省との連絡協議体制について

生活道路における速度抑制対策とは？

表面の主な事業で取り上げました生活道路における速度抑制対策事業が6月定例会において可決されました。これは国土交通省が奨励している「ゾーン30プラス」と呼ばれるものです。これは、生活道路内においては自治会での協議のもと時速30キロの速度制限に加えて、物理的に速度を抑制するハンプ（凸状の段差）やポールを設置し、通行する方の安全を確保するというものです。佐賀市では附属小と龍谷学園周辺の生活道路において設定されました。生活道路が通学路と重なっているようなエリアでは非常に有効な手段とされています。一方で、物理的な障害物を設置し、速度を抑制するために、普段利用されている方が不便になるという側面もあります。そのため、各単位自治会において「ゾーン30プラス」の導入を検討するにあたり、単位自治会内での合意形成がとても重要になります。また、導入にあたって市と警察署の調整も必要になり、少々時間を要することもあるかもしれません。いずれにしても、生活道路を通学路として利用する児童生徒の安全確保のために不断の取り組みが必要であり、該当するエリアではどのような対策が有効なのか私自身も知見を深めてまいります。



ゾーン30プラスで使用されるスムーズ横断歩道の一例。カラー舗装されたハンプに横断歩道が設置されています。（青森県むつ市の事例）



ハンプとポールによる物理的な速度抑制の一例。（神奈川県横浜市の事例）

外来植物「ブラジルチドメグサ」が発生！

南米原産の水草で繁茂する力が非常に強く、在来植物の生育を脅かすことから特定外来植物に指定されている「ブラジルチドメグサ」が地蔵川やその流域で確認されました。この植物は除去を行う際に千切れてしまった根や茎が流れ着いた先でも繁茂します。そのため、除去にあたっては下流でネットを張るなどの対策が必要です。また、この植物は群生して繁茂するため、水路の狭窄部に詰まることで河川の水の流れを阻害する恐れがあります。雨の多い時期では特に注意が必要です。もし、お住まいの近所で発見された際は佐賀市の環境政策課にご相談いただくか、私が当該地区の確認に参りますので、お気軽にご相談くださいませ。



実際に地蔵川で撮影したブラジルチドメグサの群生。驚異的なスピードで繁茂していきます。

佐賀市議会議員

たか ひろ
いなば 嵩広

〒840-0045 佐賀市西田代 2-1-9

☎ 0952-77-0836
080-3732-6929

WEB サイト



LINE



プロフィール

- ・1985年10月31日生まれ 東京都出身 成蹊大学法学部法律学科卒業。大学卒業後、リグナ株式会社というネット通販会社で経験を積む。
- ・その後、インテリア関係の商社、株式会社ジェイ・シータウン（主な取引先：株式会社飯田産業、防衛省ほか）にて多くの業務に取り組む。
- ・佐賀市西田代出身の妻と結婚した事で、佐賀にご縁を頂き、佐賀で子育てをしたいと妻に相談をし、7年前に移住。11歳の長女と7歳の次女、5歳の長男の子育て真最中！
- ・掃除や洗濯、お皿洗いなどの家事が日課で、休日は料理を担当することも。得意料理はパスタ全般。趣味は読書、料理、キャンプ、ランニング（桜マラソン2度の参加&完走!）
- ・福祉教育委員会、広報広聴委員会、九州新幹線整備に関する調査特別委員会、議会運営等改革検討会、中部広域連合議会（介護・広域委員会）

